

氏名

点数 点/100点

各論演習 2-1

問1)

当社は甲社からA材料を向こう1年間にわたり購入する契約を締結している。A材料の購入原価は、購入代価に材料副費を加えて計算している。

(資料)

1 A材料関係の予算データ

(1) 年間予定購入代価総額 8,000,000円

(2) 年間材料副費予算額

引取運賃	50,000円
荷役費	120,000円
保険料	80,000円
購入事務費	60,000円
合計	310,000円

(3) 年間予定購入回数 10回

(4) 年間予定購入数量 2,000kg

2 当月の材料購入取引の資料 (一部)

本日、甲社から納入されたA材料は次のとおりであった。

購入数量 120kg

送状価額 (購入代価) 600,000円 (4,500円/kg)

(設問1)

総括予定配賦率を用いて材料副費を購入原価に算入した場合の、A材料購入原価を求めなさい。ただし、材料副費は、購入代価を基準にA材料に配賦する。

(設問2)

費目別予定配賦率を用いて材料副費を購入原価に算入した場合の、A材料購入原価を求めなさい。ただし、材料副費の配賦基準は次のとおりとする。

引取運賃：購入代価

荷役費：購入数量

保険料：購入代価

購入事務費：購入回数

解1)

(設問1)

円

(設問1)

円

氏名

点数 点/100点

各論演習 2-2

問1)

下記の資料にもとづき、(1) 解答用紙の諸勘定を記入し、(2) 製造指図書別原価計算表 (一部) を完成させなさい。

(資料)

- 当工場では、直接材料費は予定単価@400円を用いて計算している。
- 直接材料は掛けで仕入れ、材料勘定には上記の予定単価で借記される。7月の直接材料掛仕入額 (実際購入単価×実際購入量) は765,700円で、実際購入単価は@403円であった。
- 材料勘定の月初材料棚卸高は80,000円であった。
- 7月の製造指図書別材料消費量は以下のとおりであった。

	No.100	No.101	No.102	No.103	No.104	合計
直接材料消費量	300 kg	500 kg	320 kg	280 kg	400 kg	1,800 kg

- 当月において棚卸減耗は生じていない。

解1)

(1) 諸勘定の記入

		材料	
前期繰越	80,000	()	
()		()	
		材料受入価格差異	
()			

(注) () には、適切な相手勘定科目名を記入しなさい。

(2) 製造指図書別原価計算表 (一部)

	No.100	No.101	No.102	No.103	No.104	合計
直接材料費 (円)						

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 2-3

問1)

アカリエレクトロニック株式会社 東京工場では、A材料（直接材料）の購入原価は、購入代価に外部材料副費の実際額を加算して計算している。以下の資料にもとづき、材料勘定および材料副費関係諸勘定に記入し、締め切りなさい。

なお、すべての空欄に解答が入るとは限らない。その場合は横線“ - ”を記入すること。

(資料)

①	当月の月初材料在庫はない。		
②	当月の材料購入代価と量	1,000,000円	(1,000kg)
③	当月の材料副費の実際発生額		
	引取運賃	9,372円	
	検収費	19,897円	
	選別費	7,250円	
	保険料	628円	
④	当月の材料の消費量		(700kg)
⑤	当月の月末材料在庫量		(300kg)

(設問1)

材料内部副費は購入原価に算入せず、材料出庫額に対して3%を予定配賦するものとした場合。ただし、月末材料に対しても2%の予定配賦を行うこと。

(設問2)

材料内部副費は購入原価に算入せず、その実際発生額を間接経費として処理するものとした場合。

解1)

(設問1)

材料	
買掛金	()
()	次月繰越

外部材料副費	
諸口	()

内部材料副費	
諸口	()
()	次月繰越
	()

(設問2)

材料	
買掛金	()
()	次月繰越

外部材料副費	
諸口	()

内部材料副費	
諸口	()
()	()

氏名

点数 点/100点

各論演習 2-1

問1)

当社は甲社からA材料を向こう1年間にわたり購入する契約を締結している。A材料の購入原価は、購入代価に材料副費を加えて計算している。

(資料)

1 A材料関係の予算データ

(1) 年間予定購入代価総額 8,000,000円

(2) 年間材料副費予算額

引取運賃	50,000円
荷役費	120,000円
保険料	80,000円
購入事務費	60,000円
合計	310,000円

(3) 年間予定購入回数 10回

(4) 年間予定購入数量 2,000kg

2 当月の材料購入取引の資料 (一部)

本日、甲社から納入されたA材料は次のとおりであった。

購入数量 120kg

送状価額 (購入代価) 600,000円 (4,500円/kg)

(設問1)

総括予定配賦率を用いて材料副費を購入原価に算入した場合の、A材料購入原価を求めなさい。ただし、材料副費は、購入代価を基準にA材料に配賦する。

(設問2)

費目別予定配賦率を用いて材料副費を購入原価に算入した場合の、A材料購入原価を求めなさい。ただし、材料副費の配賦基準は次のとおりとする。

引取運賃：購入代価

荷役費：購入数量

保険料：購入代価

購入事務費：購入回数

解1)

(設問1)

623,250 円

(設問1)

622,950 円

氏名

点数 点/100点

各論演習 2-2

問1)

下記の資料にもとづき、(1) 解答用紙の諸勘定を記入し、(2) 製造指図書別原価計算表 (一部) を完成させなさい。

(資料)

- 当工場では、直接材料費は予定単価@400円を用いて計算している。
- 直接材料は掛けで仕入れ、材料勘定には上記の予定単価で借記される。7月の直接材料掛仕入額 (実際購入単価×実際購入量) は765,700円で、実際購入単価は@403円であった。
- 材料勘定の月初材料棚卸高は80,000円であった。
- 7月の製造指図書別材料消費量は以下のとおりであった。

	No.100	No.101	No.102	No.103	No.104	合計
直接材料消費量	300 kg	500 kg	320 kg	280 kg	400 kg	1,800 kg

- 当月において棚卸減耗は生じていない。

解1)

(1) 諸勘定の記入

		材料	
前期繰越	80,000	(仕掛品)	720,000
(買掛金)	760,000	(次月繰越)	120,000
	<u>840,000</u>		<u>840,000</u>
		材料受入価格差異	
(買掛金)	5,700		

(注) () には、適切な相手勘定科目名を記入しなさい。

(2) 製造指図書別原価計算表 (一部)

	No.100	No.101	No.102	No.103	No.104	合計
直接材料費 (円)	120,000	200,000	128,000	112,000	160,000	720,000

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 2-3

問1)

アカリエレクトロニック株式会社 東京工場では、A材料（直接材料）の購入原価は、購入代価に外部材料副費の実際額を加算して計算している。以下の資料にもとづき、材料勘定および材料副費関係諸勘定に記入し、締め切りなさい。

なお、すべての空欄に解答が入るとは限らない。その場合は横線“ - ”を記入すること。

(資料)

①	当月の月初材料在庫はない。		
②	当月の材料購入代価と量	1,000,000円	(1,000kg)
③	当月の材料副費の実際発生額		
	引取運賃	9,372円	
	検収費	19,897円	
	選別費	7,250円	
	保険料	628円	
④	当月の材料の消費量		(700kg)
⑤	当月の月末材料在庫量		(300kg)

(設問1)

材料内部副費は購入原価に算入せず、材料出庫額に対して3%を予定配賦するものとした場合。ただし、月末材料に対しても2%の予定配賦を行うこと。

(設問2)

材料内部副費は購入原価に算入せず、その実際発生額を間接経費として処理するものとした場合。

解1)

(設問1)

材料			
買掛金	1,000,000	(仕掛品)	707,000
(外部材料副費)	10,000	次月繰越	303,000
	<u>1,010,000</u>		<u>1,010,000</u>

外部材料副費			
諸口	10,000	(材料)	10,000

内部材料副費			
諸口	27,147	(仕掛品)	21,210
(配賦差異)	123	次月繰越	6,060
		(-)	-
	<u>27,270</u>		<u>27,270</u>

(設問2)

材料			
買掛金	1,000,000	(仕掛品)	707,000
(外部材料副費)	10,000	次月繰越	303,000
	<u>1,010,000</u>		<u>1,010,000</u>

外部材料副費			
諸口	10,000	(材料)	10,000

内部材料副費			
諸口	27,147	(製造間接費)	27,147
(-)	-	(-)	-
	<u>27,147</u>		<u>27,147</u>